江陵 南商を打破

【2回戦・江陵―帯南商】初回、江陵の長尾拓海は2死満塁から中前に2点適時打を放つ

春季高校野球 十勝支部予選

第4日は12日、帯広の森野球場で2回戦3試合を行った。午前の第1試合は江陵が序盤に四球を絡めた大量得点で試合の主導権を握り、粘る帯南商に6―2で快勝、2年連続の準々決勝進出を決めた。江陵の左腕古谷優人（2年）は2試合連続の2桁奪三振。

11日午後の2回戦は、音更が好機を生かして加点、左腕玉川健太郎（3年）も5安打無失点と力投し、上士幌を八回コールドの7―0で破った。音更は2年ぶりの準々決勝進出。帯三条はエース藤崎稜也主将（3年）が帯北打線を散発に抑える好投、打線も長短8安打で効率よく得点し7―0の八回コールド勝ち、2年連続の8強入りを決めた。

（岡部彰広、塩原真）

古谷が連続2桁奪三振

（12日）

◇2回戦

江陵	4	0	2	0	0	0	0	0	0	6
帯南商	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2

▽三塁打＝土井（帯）

▽二塁打＝阿部聡、山本、阿部航（江）

江陵は初回1死から榎本の四球、古谷の左前打、佐藤慶の四球で満塁とし、阿部航の押し出し四球で先制。さらに2死満塁から長尾の2点中前打に井下の左前に落ちる適時打と、打者一巡の猛攻で4―0とした。三回には阿部聡の左越え二塁打に安藤の四球、山本の左越え2点二塁打と長打攻勢で試合の主導権を握った。しかし五回以降、4度あった得点機を逃し、押し切れなかった。

帯南商の左腕板花は球に力こそあったが、制球力を欠いた。四番土井が4安打で気を吐き、六回1死二、三塁からの板花の中前打で1点。最終回には2安打1四球で無死満塁から上川の内野ゴロで1点を追加したが、序盤の大量失点が重かった。

【江陵】

		打	安	点	振	球
②	山本	5	2	2	0	0
⑨	榎本	3	0	0	0	2
①	古谷	5	2	0	1	0
⑥	佐藤慶	3	0	0	1	2
⑦	阿部航	3	1	1	0	2
⑤	阿部聡	4	1	0	0	0
④	長尾	3	2	2	0	1
③	井下	5	1	1	1	0
⑧	藤安	1	0	0	1	2
H	瀬廣	1	0	0	0	0
8	見伏	0	0	0	0	0

犠盗併残失
1 0 1 1 1 2

		打	安	点	振	球
339	6	4	9			

【帯南商】

		打	安	点	振	球
④	綱島	5	2	0	0	0
⑨	谷口	5	2	0	1	0
②	川上	5	0	1	0	0
⑧	井土	5	4	0	1	0
③	藤佐	5	0	0	2	0
①	花板	3	1	1	2	1
⑦	西尾	4	0	0	2	0
⑤	田武	3	0	0	3	1
⑥	本寺	3	0	0	2	1

犠盗併残失
0 0 0 1 2 1

		打	安	点	振	球
38	9	2	13	3		

	回	者	球	数	安	振	球	責
古谷	9	41	150	91	33	1		
板花	9	43	158	94	9	6		

音更2年ぶり8強

上士幌、好機生かせず

（11日）

◇2回戦

音更	0	0	1	2	0	2	1	1	0	7
上士幌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（八回コールド）

▽二塁打＝高橋、玉川（音）、國枝（上）

音更は無死一、二塁のピンチを切り抜けた直後の三回、1死から高橋の左翼方向への二塁打に打田の中前打で一、三塁とし、紺野晴の右前打で先制。四回にも玉川の左中間二塁打を足掛かりに敵失や野選を絡めて時の教え子。昨秋は勉強に関する規則を守れず、レギュラー番号ながら試合に出られなかった。久々の出場に緊張したが、谷本監督から「いつも通りにいけ」と言われて臨んだ初回の2死満塁の打席で、高め直球を中前にクリーンヒット。チームを勢いづかせた。

「グラブ裁きなどはチーム一」（谷本監督）という腕を持つ選手。得意の守備で1失策した点を反省しつつ「1桁番号を取って親にもいい姿を見せたい」とチームへの貢献とともに、自らの成長を目指す。

（12日）

◇2回戦

白樺学園	5	2	6	8
広尾	0	0	0	0

（午後1時5分現在）

監督の期待に応え打撃で活躍

江陵・長尾

○…江陵の背番号17番・長尾拓海（3年）は、1年夏以来の先発出場となったが、2安打2打点などの活躍で谷本献悟監督の期待に応えた。

谷本監督が札幌新琴似リトルシニアのコーチだった